

# バランスの底釣り

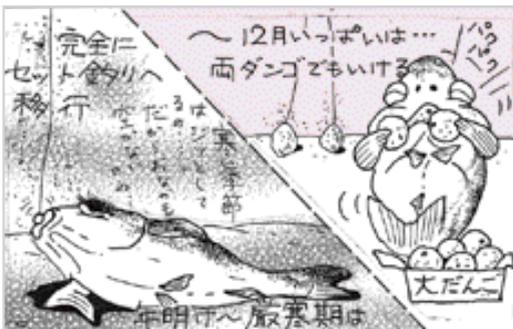
## 最近の傾向

水温の関係から12月いっぱいまでの期間は比較的ウキの動きは良く、両ダンゴでも十分に強い食いアタリが出る。それはまだへら鮒が大きな芯の残るダンゴ系を追うからで、そのような場合には無理にセツトの釣りに移行する必要も少ない。しかし、急激な冷え込みや混雑時には軽く吸い込みやすいタイプのエサが必要にもなる。

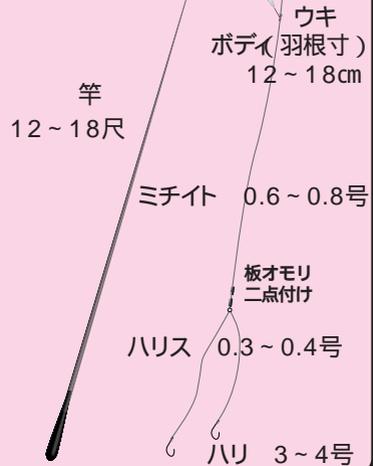
一方年明けから厳寒期にかけては、水温の低下にともなうて驚くほど低活性となり、ウキの動きは目くことに悪くなる。そのような状況では、芯が大きく吸い込みにくいエサよりも、軽くハリフトコロに小さく残るようなエサが必要になる。

それがグルテンであり、それら（グルテン・ウドン・「感嘆」など）をくわせエサに使ったセツト釣りが効果を発揮していくのである。

バラケエサの傾向は、大きく分けて、「ダンゴの底釣り」系と「ベレット」系の2タイプになる。比較的ベレット系のエサの方が重いため、魚影の濃い釣り場や水深のある場所での底釣りには適している。しかし、定番の「ダンゴの底釣り」夏「冬」の組み合わせも有効だ。



仕掛け図



竿については新べら放流後、沖目に居着くことがあるので、そんな状況時には21尺位の竿も必要になる。ウキはほぼオーソドックスなもので良いが、厳寒期になれば吸い込みも弱くなるため、ボディ、トップともに細めのものが適している。ミチイトは0.6～0.8号、ハリスは0.3～0.4号、ハリは3～5号を使い分ける。特に、ハリスは食い渋り時に0.2号位まで落とすことがある。全体的に繊細なタックルとなるため、シンプルに仕上げるのが大切で、その中でも「ウキ周り」「オモリ周辺」には注意が必要になる。

## オモリ量とエサの大きさ

オモリのサイズ

0.25mm厚板オモリ 17mm × 20 ~ 17mm × 20mm × 2

オモリ  
実寸大



両グルテン

直径8 ~ 10mm

エサ  
実寸大

両グルテン



バラケとグルテンのセット

バラケ直径8 ~ 10mm

くわせ直径7 ~ 8mm

バラケ



両ダンゴ

直径8 ~ 10mm

両ダンゴ



くわせエサ



## パターン 1

両グルテン

グルテン四季30cc +  
わたグル30cc +  
いもグルテン30cc + 水100cc

どのような釣り場でも効果的。「グルテン四季」がエサを膨らませ、「わたグル」でエサを持たし、「いもグルテン」は重さをつけて型崩れを抑える効果がある。ややボソツとした仕上がりで、深場の釣りにも適している。



+



+



+



## ●釣り方&エサ使いのコツ

パターン は、基本的には新べら狙いになるが、厳寒期で必要以上のバラケエサを打ち込むとかえってウワズリ、釣りにくくなるときにも有効。へら鮒が溜まっているポイントでのバランスの底釣りでは時合が続きやすくコンスタントな釣りができる。やや硬めに仕上がるので、しつとり系にするときには、エサを山型にして上から手水をポタポタと落として微調整する。

セッティングはほぼオーソドックスな仕様で良いが、エサの追いが悪いときには通常のハリす寸法が上30cm、下35cmのところを、上40cm、下45cm位まで延ばすと効果の出るときがある。ウキの動きは比較的軽いエサなので返しも早い。1目盛程度の浅いなじみから返して、「モゾツ」が理想形となる。

パターン は、セットの釣りで、上バリのバラケで寄せ

るが、盛期のような強いバラケは必要なく、底で膨らむ程度のバラケに仕上げる。しつとり系のバラケで、「スーパーダンゴ」がブレンドしてあるため、膨らみも良い。

くわせエサのグルテンは「わたグル」の単品使いが効果的。グルテン繊維の多いエサを作る場合には、フタ付き密閉容器を使用してシェイクすると、均等にグルテンが混ざり膨らみのあるエサに仕上がる。グルテンが持たないときは手揉みで調整するが、吸い込みが悪いときには更に手水を打ちながらペトペトのタツチにしてもハリ持ちする。

セッティングでは、くわせエサのハリスだけ細くすると効果的で、ハリも食い渋り時には軽いタイプが適している。いつまでもモヤモヤとしていて食い込まないときには、ズラシ幅を多くすると食いやすくなる。

## パターン 2

バラケにグルテンのセット

ダンゴの底釣り冬 100cc +  
バラケマッハ 100cc +  
水 120cc +  
スーパーダンゴ 50cc

「ダンゴの底釣り冬」+「バラケマッハ」に水を120cc入れ、一旦ドロドロ状にして「スーパーダンゴ」50ccで調整する。

## くわせエサ

わたグル  
40cc +  
水50cc

フタ付き密閉容器に「わたグル」と水を入れ、シェイクして仕上げる。目の細かなフワツとしたグルテンができる。



+



+



+



+



## グルテンエサの豆知識



グルテンを作るときは、袋の中のマッシュとグルテンが混ざるように、一端逆さまにしたり、振ってから使う。また、カップへグルテンを注ぐと、マッシュが多く出てしまうので、カップを袋の中に入れ、すくうようにする。

## グルテンエサのシェイク



フタ付き密閉容器にグルテンを入れ、そこに水を注ぐ。フタを開けてシェイクする。このように作ると均等にグルテンが混ざるので、膨らみよくきめ細かい感じに仕上がる。

パターン は、比較的タンゴのエサを追うときに有効で、年末はこのブレンドで管理釣り場も野釣り場も十分に釣りがされる。「ダンゴの底釣り冬」の集魚力とネバリ、「冬のバラケ」のこまかな粒子が底で膨らむことで、吸い込みやすいエサとなる。流れなどがありエサが持たないときには、「粘力」を添加すると更にエサ持ちがよくなる。

ツト系のエサが良く、「グル魂」と「ベレ道」のブレンドは、軽くフワツとしたタッチに仕上がる。

このエサの場合、強いアタリでヒットすることが多く、なじんでそのまま力チツと入るパターンで時合が作れるため、比較的早い底釣りが可能となる。重さのあるエサのため、ハリスの寸法も通常よりもやや長いセッティングが適している。

## パターン 3

両ダンゴ

# ダンゴの底釣り冬100cc + 冬のバラケ100cc + 水100cc

これでエサ持ちが悪いときには「粘力」をスプーン1杯入れるとエサ持ちが良くなる。また、好活性でベレット系を追うときには「ベレ道」200cc + 「グル魂」50ccに水100~120ccで仕上げる。手触り的にはネバツとしているが、水中ではフワツと膨らむベレット系のエサができる。



+



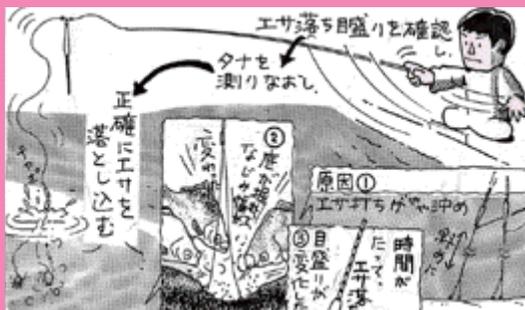
+



# バランスの底釣り こんな時どおする？

## Q<sup>1</sup> ウキが なじみ過ぎて しまう

**A<sup>1</sup>** 考えられることは、エサの打ち込む場所がやや沖に入っているため、ミチイトが斜めになっている。へら鮒が寄ってきたことから底が掘れてその分だけなじみ幅が多くなっている。時間が経つにつれてエサ落ち目盛が変わってしまっている、などが考えられる。そのほかミチイトが若干縮んで（戻る）しまうことも考えられる。もう一度エサ落ち目盛を確認して、タナを測りなおし、正確にエサを落とし込めば理想のなじみ幅に戻る。



## Q<sup>3</sup> どうしても スレが多い

**A<sup>3</sup>** スレしてしまう場所によっても対応は異なるが、魚の下部に掛かってしまうときには比較的ズラシ幅が多過ぎる可能性がある。もう一度タナを測りなおして、上バリトントンの位置からその日のタナを探すと良い。また、エサが軽過ぎたりバラケ性強いときにはウヅリ気味となつてスレる場合がある。そんなときにはウキの動きが派手になるので、エサのタッチをしっかりとネバにして魚を落ち着かせる工夫が必要になる。

## Q<sup>2</sup> 小さなアタリに 手が出ない

**A<sup>2</sup>** 底釣り特有のアタリは極めて小さな動きになることが多い。アタリというよりも“変化”位の場合も多く、そんなときにはウキの僅かな戻りに細心の注意をする。魚がエサを吸い込む直前の多くは、エサの付近に水流が発生して僅かにウキが返されることが多い。いきなり“モゾッ”と入るアタリに手が出ないときはあるが、この返しを見極めればその直後の変化には手が出るようになる。また、僅かにラインにテンションをかける動作を続けていると、同じように合わせやすくなる。

# 最近実績大の ペレ道とは？

## ブレンドパターン

抜けやすい～標準

グル魂50cc + ペレ道200 + 水100cc



標準～もたせ気味

ペレ道200 + バラケバインダー200cc +  
グル魂30cc + 水150cc



### ●釣り方&エサ使いのコツ

「グル魂」と「ペレ道」を粉の状態できよくかき混ぜ、水を注ぐ。全体に水を浸透させ、しばらく置くと、やわらかめのモチっとした仕上がりになる。

このエサで持たないと感じるときは、「バラケバインダー」を入れたブレンドにしてみよう。それでもウワズるようであれば、「バラケバインダー」を追い足していぐ。

ウキの動きとしては、魚が寄りだしても、少しこらえて、アタリが出るくらいが良いだろう。なじんだ後、すぐウキ

が返してくるようでは、魚が寄れば寄るほど收拾がつかなくなるので要注意。

セッティングの注意点としては、大きめのウキを使うこと。タナまでは早く入れ、そこからやや長めのハリスのなじみ際の早いアタリを取るのが理想だ。また、エサが重いので、はわせ気味のタナ（最低でも5cmスラシで、10cm以上もある）で釣ること。

あとは、難しく考えないで、ふつうの底釣りと同じようにウキの動きを一定のリズムに近づければ良い。

「ペレ道」とは、一世を風靡したペレ宙の底釣り版。あまり攻められていない沖めの底をベレット系で狙う釣り方だ。ベレットを使うことで、魚を厚く寄せられ、型も揃えられるので、トーナメントや例会でも実績が高い。また、新べ

らにも効果がある。底釣りなので、エサを持たせることが重要であり、芯残りさせるために「ペレ道」に「グル魂」という組み合わせで、ベレット入りグルダンゴという、ひとつのエサというイメージで考えれば良い。

### 参考 セッティング

竿 18尺（タナは2～3本の底）  
ウキ ボディ5mm径18cm（羽根寸）パイブトップ  
ミチイト 0.8～1.0号  
ハリス 0.4～0.5号  
上50cm、下58cmから始め、動きすぎるときは5cm単位で詰める。  
ハリ 5～7号  
オモリ量 0.25mm厚板オモリ17mm×50～60mm  
エサの大きさ 直径10mm程度